

桜もっと身近に

桜について教えてくれた塩原さん



樹木医、桜守
塩原 貴浩さん

桜はどんな植物なんでしょうか？木の治療をする樹木医で、桜を守り伝える「桜守」としても活動す

る塩原貴浩さん(45)＝前橋市＝に、桜の種類や歴史について教えてもらいました。

桜守

花が咲く10日間に向けて、毎日桜を守るのが桜守の役割です。毛虫を退治したり傷んだ枝を取り除いたりして、弱っている桜を保護します。

私は桜守で知られる京都府の佐野藤右衛門さんの下で5年間修業し、今は県内各地の桜を見守っています。手を加えすぎると、かえって桜本来の生きる力を弱めてしまうので、手入れというよりも「守り」という発想が大切ですね。

桜守は職業ではなく、桜を愛する一人一人のことをいいます。みなさんも、まずは自分の「マイ桜」を決めて、毎年会いに行ったり観察したりしてみたいかがでしょうか。

虫退治や傷んだ枝除去

開花向け毎日見守り



専用の道具を使ってサクラの幹の様子を調べます。前橋市・敷島公園

種類

一年中、日本のどこかで咲いている？

見た目も多彩な300種

桜は300種類以上ありますが、もともと日本にあった原種は10種類です。ほとんどの桜は人が掛け合わせて生まれました。実は9月以外は一年中、日本

のどこかで咲いています。さまざまな種類を見てみよう！（写真は公益財団法人日本花の会提供）

ヤマザクラ



原種の一つ。花と葉が同時に出来ます。つるつるとした幹は茶筒など加工品になることも多いです。

ソメイヨシノ



日本の桜の8割を占めます。白い花が咲いて葉は桜餅に使われるオオシマザクラと、花がピンク色のエドヒガンを掛け合わせたとされています。

コブクザクラ



白い花の中にもう一つ花をつける珍しい品種。春と冬の2回咲きます。

ギョイコウ



緑色の花です。「葉と茎が変化して花になった」といわれますが、ギョイコウの花は先祖帰りして葉の色をしています。

カンザン



花びらが10枚以上重なった桜のことを「ヤエザクラ」と言いますが、その一つです。花は濃いピンク色をしています。

語源

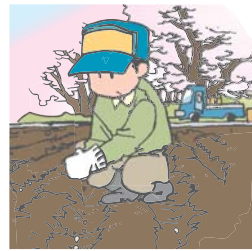
「農耕の神様宿る場所」との説

生活と強い結び付き

桜の「さ」は農耕の神様という意味があり、神様が宿る「くら」(場所)が桜の語源とされます。花の開花が農作業の目安として使われるなど、日本人の生

活と桜は強い結び付きがありました。

今は桜といえばソメイヨシノが思い浮かびますが、昔はヤマザクラが主流でした。ソメイヨシノは江戸時代末期に染井村(今の



桜の幹に編み目の細かいネットを巻いて成虫が増えないようにします＝館林市



害虫

クビアカツヤカミキリ注意

東毛中心に被害広がる

ここ数年広がっているのが、外来種のクビアカツヤカミキリによる桜の被害です。この虫は県内では2015年に館林市で初めて見つかると、東毛地域を中心に広がっていま

す。幼虫が木の中に入り、食い荒らして弱らせます。木の根元に木くずがたくさん落ちていけば生息している証拠。木に防虫ネットを巻いて成虫が飛び立つ前に捕まえるのが



クビアカツヤカミキリを捕まえようと木を観察する住民＝2019年7月、館林市つつじ町

一番の対策です。桜と同じバラ科のウメやナシ、モモにも寄生するため、果樹栽培が盛んな本県でも注意しないと